

# ■平成 31 年度 後期選抜 入試問題分析【国語】

## ■問題分析

### 1. 全体を通して

例年通り大問 5 問の構成であった。おおまかな出題内容は変わらなかったが、出題の順番が変更され、知識と対話文の問題が第四問から第一問へ、小説は第一問から第二問へ、説明的文章は第二問から第三問へそれぞれ移動している。また、比較的解きやすい第一問(これまでの第四問)の配点が 4 点増えて 28 点になり、文学的文章と説明的文章の配点がそれぞれ 2 点減少した。説明的文章の設問がやや難しいが、古文は易しくなった。

### 2. 大問ごとの分析

#### 【第一問】国語知識・対話文

第一問は国語に関する知識と対話文の問題。問二(一)の活用の種類を問う問題で迷った生徒が多かったと思われるが、他の問題は対話文も含めて難しくはない。できれば間違いは 1 つまでにしたい大問。

#### 【第二問】文学的文章

宮城県では珍しい、時代設定が古い(明治時代)小説からの出題であったが、内容は現代の中学生にもわかりやすいものである。問五の記述は、解答の根拠とする箇所は見つけやすいが、一般化して五十五字以内にまとめるのは難しい。

#### 【第三問】説明的文章

本文はコンピュータ(機械)と人間(生物)の二項対立が明確であり、本文そのものは理解しやすい。問三の抜き出す問題は、該当箇所が離れたところにあり、探するのがやや難しい。問五の五十字記述は、設問をよく読めば書く内容が絞り込めるようになっており、部分点は十分狙える。

#### 【第四問】古文

注や訳が添えられている箇所が多く、大変易しい。中堅～上位校を目指す生徒であれば満点を取ってほしい。

#### 【第五問】作文

例年通り 200 字以内の作文が出題された。3 つの選択肢から自分が書きやすいものを選べるので、例年より易しいといえるだろう。

## ■出題・配点一覧

科目	大問・単元	形式・内容	問題数	配点	小計
国語	第一問 国語知識 対話文・メモ	漢字の読み書き	8	16	28
		文法	1	2	
		ことわざ	1	2	
		対話文内容理解(記号)	2	5	
		書き抜き	1	3	
	第二問 文学的文章	記号選択	3	8	22
		書き抜き	2	6	
		記述(10字)	1	3	
		記述(55字)	1	5	
	第三問 説明的文章	記号選択	4	11	22
		書き抜き	2	6	
		記述(50字)	1	5	
	第四問 古文	歴史的仮名遣い	1	2	8
		記号選択	1	3	
		記述(25字)	1	3	
第五問	作文	作文(160～200字)	1	20	20